

据付手順

- | | | |
|----------------|-------------------|---------------|
| STEP 1 安全上のご注意 | STEP 4 室内ユニットの据付け | STEP 7 試運転と確認 |
| STEP 2 付属部品の確認 | STEP 5 室外ユニットの据付け | |
| STEP 3 据付場所の選定 | STEP 6 必要なときに | |

STEP 1 安全上のご注意 必ず守ってください

- ◆据付け前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しく据え付けてください。
- ◆据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れのしかたを説明してください。

◆本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。



警告

死亡や重傷を負うおそれがある内容。



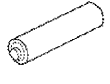

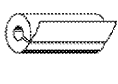
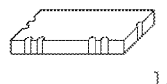
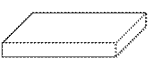

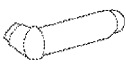






- 配線を途中で接続しない、電源コードを束ねない、より線や延長コードの使用、タコ足配線はしない。
(発熱や感電、火災の原因)
- エアコンの設置や移設の場合、冷凍サイクル内にR32以外の空気などを混入させない。
(空気などが混入すると、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因)
- 指定冷媒(R32)以外は使用しない。
(機器の故障や破裂、けがなどの原因)
- 調理室など油煙の多い所、または可燃性ガス、腐食性ガスや金属製のホコリのある場所には据え付けない。
(水漏れや火災、故障の原因)
- 可燃性のもの(ヘアスプレーや殺虫剤など)は本体の近くで使用しない。
(ひび割れや感電、引火の原因)
- 据付けは、お買い上げの販売店または専門業者に依頼する。
(水漏れや感電、火災の原因)
- 据付工事は、付属品および指定の部品を使用し、この据付説明書に従って確実に行う。
(ユニットの落下や水漏れ、感電、火災の原因)
- 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。
(ユニットの落下によるけがの原因)
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」およびこの据付説明書に従って施工し、専用回路を使用する。
(感電や火災の原因)
- 据付工事は、電源を切って行う。
(電気部品に触れると感電の原因)
- 漏電しゃ断器を取り付ける。
(感電や火災の原因)
- 室内外ユニット間および電源の配線は、内線規程に従って所定の電線を用いて接続し、端子部に電線の外力が加わらないよう確実に固定する。
(発熱や感電、火災の原因)
- 室内外ユニット間および電源の配線は、閉鎖弁カバーなどが浮き上がらないよう電線を成形し、カバーを確実に取り付ける。
(端子部の発熱や感電、火災の原因)
- ポンプダウン作業では、冷媒配管を外す前に圧縮機を停止する。
(圧縮機を運転したまま、かつ閉鎖弁(バルブ)開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因)
- 据付作業では、圧縮機を運転する前に、確実に冷媒配管を取り付ける。
(冷媒配管が取り付けられておらず、かつ閉鎖弁(バルブ)開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂やけがなどの原因)
- 作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気し、据付工事完了後は冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
(冷媒ガスが火気に触れると、有毒ガスが発生する原因)
- 配管、フレアナット、工具はR32用、もしくはR410A用のものを使用する。
(R22の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因)
- フレアナットはトルクレンチなどで指定の方法で締め付ける。
(締め過ぎると、長期経過後フレアナットが割れ、冷媒漏れの原因)
- アース工事を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しない。
(感電や火災の原因)

注意

傷害を負うおそれ、または物的損害が発生するおそれがある内容。

- 可燃性ガスの漏れるおそれのある場所へは据え付けない。
(発火の原因)
- 室内外ユニットの吸込口やアルミフィンにさわらない。
(けがの原因)
- 室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所には据え付けない。
(小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙、発火の原因)
◆お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。
- 室外ユニットの天板を外すときは強くにぎらない。
(鋭利な板金によりけがの原因)
- ドレン工事は、この据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
(屋内に浸水し、家財などをぬらす原因)

STEP2 付属部品の確認

| 室内ユニット | | | | | |
|--|--|--|---|---|---|
| ㉔ワイヤレスリモコン  1個 | ㉕リモコンホルダー  1個 | ㉖乾電池単4  2本 | ㉗本体用金具  4個 | ㉘断熱筒  1本 | ㉙断熱材  1枚 |
| ㉚断熱材  1枚 | ㉛シール材  3枚 | ㉜ドレンホース  1本 | ㉝異径継手  1個 | ㉞接着剤  1個 | ㉟結束バンド  6個 |
| ㊱タッピンネジ M4×12L  4本 | ㊲リモコンホルダー 取付ネジ M3×20L  2本 | ㊳取扱説明書 ㊴据付説明書 ㊵保証書 各1部 | 室外ユニット ㊶ドレンソケット  1個 ◆システムマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。 | | |

室内ユニットの据付部材(別売品) (パターンA~Jについては、STEP4 室内ユニットの据付けパターンについて を参照)

| 品名 | 設置パターン | A | B | C | D | E | G | H | J |
|----------------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 前面グリル<スイング付> 和風 | KDG939A11 | KDG939A11 | — | — | — | — | — | — | — |
| 前面グリル<スイング付> 洋風 | KDG939A11-W | KDG939A11-W | — | — | — | — | — | — | — |
| 前面グリル<スイング無> 和風 | — | — | KDG939A20 | KDG939A20 | KDG939A20 | KDG939A30 | KDG939A30 | — | — |
| 前面グリル<スイング無> 洋風 | — | — | KDG939A20-W | KDG939A20-W | KDG939A20-W | KDG939A30-W | KDG939A30-W | — | — |
| 据付枠 | KKF074A10 | KKF939A10 | KKF074A20(B) | KKF939A20(B) | KKF939A20(B) | KKF074A30(B) | KKF939A30(B) | — | — |
| 本体吹出ダクト | KDJ939A41 | KDJ939A41 | KDJ939A41 | KDJ939A41 | KDJ939A41 | KDJ939A41 | KDJ939A41 | KDJ939A41 | — |
| 本体吸込チャンバ | KDD939A41 | KDD939A41 | — | — | — | — | — | — | — |
| 下吸込グリル(フルパネル)ホワイト | — | — | — | — | — | — | — | — | BCL50N-W #1 |
| 天埋据付キット | — | — | — | — | — | — | — | — | KDH939B4 |
| 背面吸込チャンバ | — | — | — | — | — | — | — | — | KDD939A42 #2 |
| キャンバスダクト | — | — | — | — | — | — | — | — | KJCL50B |
| 下吸込フィルターチャンバユニット | — | — | — | — | — | — | — | — | KJFL50B #2 |
| ダクト接続アダプター | — | — | — | — | — | — | — | — | KJFA939A41 |
| 分岐チャンバ | — | — | — | — | — | — | — | — | KBDT15A12 |
| 分岐チャンバ | — | — | — | — | — | — | — | — | KBDT20A12 |
| ダクト吹出チャンバ | — | — | — | — | — | — | — | — | KDC939A43 |
| 2方向横吹出チャンバ | — | — | — | — | — | — | — | — | KJFD939A41 |
| マルチ分岐チャンバ(給気用) | — | — | — | — | — | — | — | — | KJDM939A4 |
| 天井吹出チャンバ (φ125mm用) | — | — | — | — | — | — | — | — | KDTC939A13i |
| 天井吹出チャンバ (φ150mm用) | — | — | — | — | — | — | — | — | KDTC939A13 |
| 天井吹出グリル | — | — | — | — | — | — | — | — | KDTG939A13(W) |
| 横吹出チャンバ (150×100用) | — | — | — | — | — | — | — | — | KDKC939B21 |
| 横吹出グリル (150×100用) | — | — | — | — | — | — | — | — | KDKG939A21(W) |
| 横吹出チャンバ (200×100用) | — | — | — | — | — | — | — | — | KDKC939B22 |
| 横吹出グリル (200×100用) | — | — | — | — | — | — | — | — | KDKG939A22(W) |
| 横吹出チャンバ (300×100用) | — | — | — | — | — | — | — | — | KDKC939B23 |
| 横吹出グリル (300×100用) | — | — | — | — | — | — | — | — | KDKG939A23(W) |
| 横吹出チャンバ (400×100用) | — | — | — | — | — | — | — | — | KDKC939B24 |
| 横吹出グリル (400×100用) | — | — | — | — | — | — | — | — | KDKG939A24(W) |
| ドレンアップキット | — | — | KDU939A41 | KDU939A41 | KDU939A41 | KDU939A41 | KDU939A41 | KDU939A41 | KDU939A41 |
| 薄形リモコン | KRC939A1 | KRC939A1 | KRC939A1 | KRC939A1 | KRC939A1 | KRC939A1 | KRC939A1 | KRC939A1 | KRC939A1 |
| リモコンコード (3m・8m・12m・20m) | KRCW101A03・05・12・20 | KRCW101A03・08・12・20 | KRCW101A03・09・12・20 | KRCW101A03・08・12・20 | KRCW101A03・05・12・20 | KRCW101A03・08・12・20 | KRCW101A03・09・12・20 | KRCW101A03・08・12・20 | KRCW101A03・08・12・20 |

*1. 本体下吸込の場合に使用 *2. 背面ダクト吸込の場合に使用

| 現地調達部材 | |
|----------------|--|
| 品名 | 仕様 |
| ドレン配管(硬質塩ビパイプ) | VP16(外径φ22mm)またはVP20(外径φ26mm)その他必要に応じてソケット、エルボなど |
| 接着剤 | 塩ビ系接着剤 |
| 断熱材 | 配管断熱用、ドレン配管断熱用それぞれ肉厚10mm以上の発泡ポリエチレン |
| 内外連絡電線 | VVFケーブル(φ1.6mm-3芯 いずれか φ2.0mm-3芯) |
| 冷媒配管 | STEP5 冷媒配管を接続する を参照 |

STEP3 据付場所の選定

室内ユニット

- 吸込口、吹出口に障害物のない所。
- 近くに熱や蒸気の発生がない所。
- 電子式点灯方式(インバーターまたはラピッドスタート方式)の蛍光灯から出来るだけ離れた所。(リモコンの受信距離が短くなる場合があります)
- テレビ、ラジオなどから1m以上離れた所。
(映像が乱れたり、雑音が生じることがあります)
- 火災警報器から吹出口までが、1.5m以上離れた所。
- 据付所要スペースで示す据付制約が守れる所。
- 室内ユニットの重量に耐える強度のある所。
(据付けには、吊りボルトを使用します。据え付けようとする場所が室内ユニットの重量に耐えられるかどうかを検討し、危険と思われましたら桁などで補強したうえで、吊りボルトを設置してください。)
- 天井下面がいちじるしく傾いていない所。
- 据付け上、サービス上の作業スペースが確保できる所。
- ◆設置場所のドアや引き戸のすき間を目張りしないでください。

リモコン

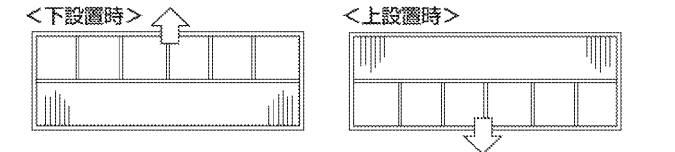
- リモコンホルダーを取り付ける場合は、取付位置で信号が受信されることを確認する。
部屋に蛍光灯が取り付けられている場合は、蛍光灯を点灯させた状態で確認する。

室外ユニット

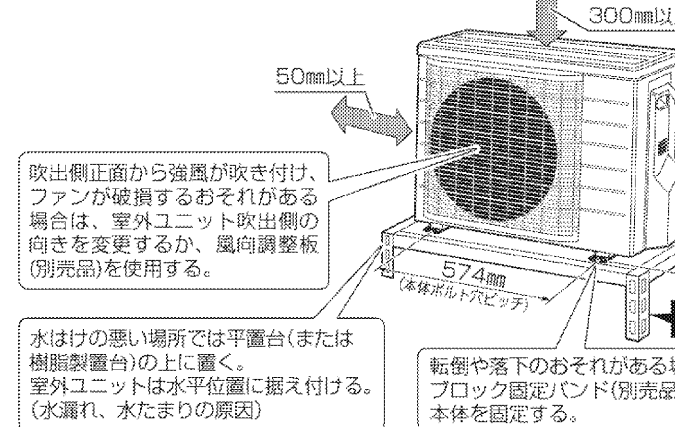
- 排水されたドレン水が流れても問題のない所。
- 吸込口、吹出口に障害物のない所。
(降雪地では、雪でふさがれない所)
- 雨、直射日光があたりにくく、風通しの良い所。
- 吹出側正面から強風が連続的に吹き付けられない所。
(ファンが高速で逆回転し、破損するおそれがあります)
- 海岸地域など塩分が多い所、硫化ガス成分が多い所、機械油などの油の蒸気が発生する所は避ける。
(室外ユニットの寿命が短くなる場合があります)
- 消防法および都道府県の条例などを満足する所。
- 運転音や冷(温)風が隣家の迷惑にならない所。
- テレビ、無線機などのアンテナより3m以上間隔を取れる所。
- 据付所要スペースで示す据付制約が守れる所。

ポイント (詳細は、STEP4 室内ユニットの据付けパターンについてを参照)

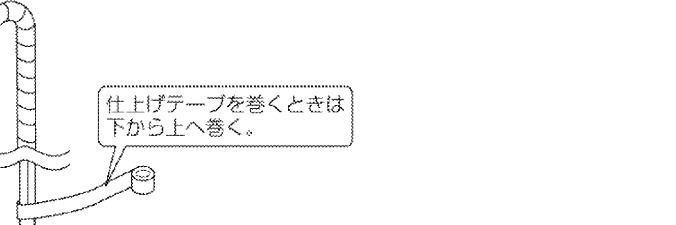
- ◆据付パターンA・B・C・D・E・G・Hのときは、本体吹出ダクト(別売品：KDJ939A41)が必要です。
- ◆据付パターンに応じて、本体吹出ダクトの向きが変わります。



- ◆据付パターンA・Bのときは、本体吸込チャンバ(別売品：KDD939A41)が必要です。
- ◆据付パターンJのときは、天理据付キット(別売品：KDH939B4)が必要です。
- ◆据付パターンにより、電装品箱取付位置が異なります。



- ◆本図はセパレート形を示しています。
- ◆室内ユニットは前後左右の傾きに注意してください。
- ◆システムマルチの場合、配管長・高低差・据付寸法などはマルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

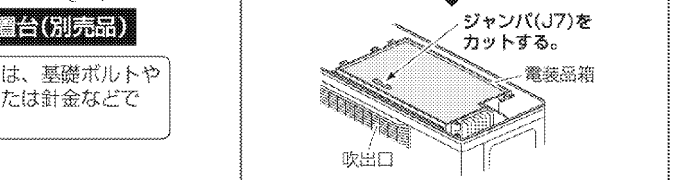
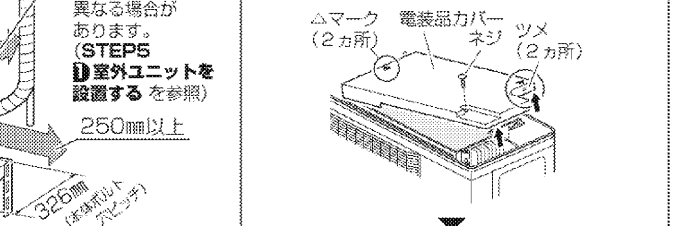


| | 最大 連絡配管長さ | 最大 高低差 |
|--------------|--------------|-----------|
| 2.8kW、3.6kW機 | 25m以内 | 15m以内 |
| 4.0kW、5.0kW機 | 30m以内 | 20m以内 |

- ◆連絡配管が15mを超える場合は冷媒追加してしてください。
配管1mあたりの冷媒追加量：20g/m
また、室外ユニットのプリント基板にあるジャンパ(J7)をカットしてください。

[ジャンパ(J7)の位置]

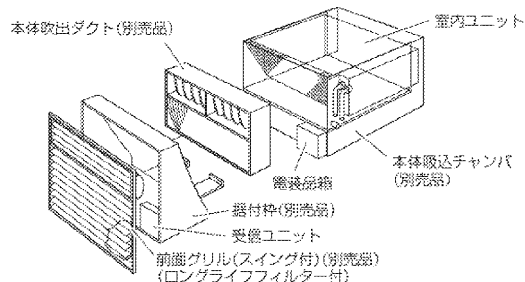
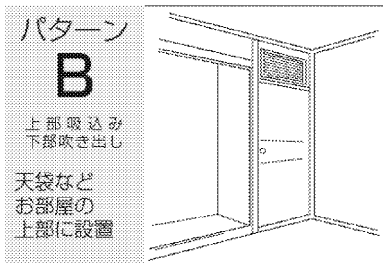
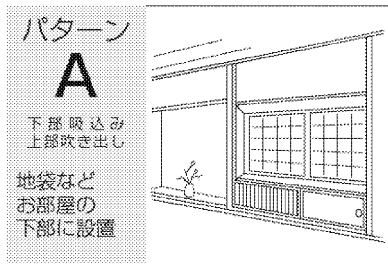
- 電装品カバーの外しかた
◆ネジ1本と△マーク2カ所のツメを外した後、図のように傾けて電装品カバーを取り外してください。



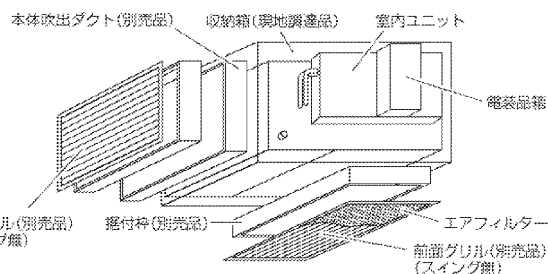
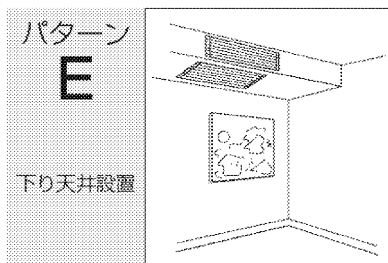
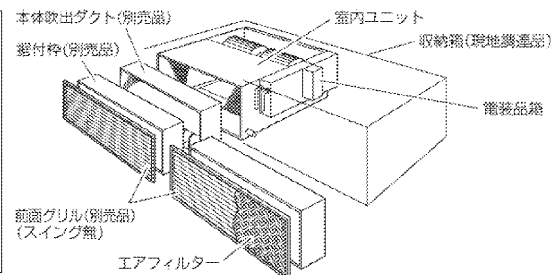
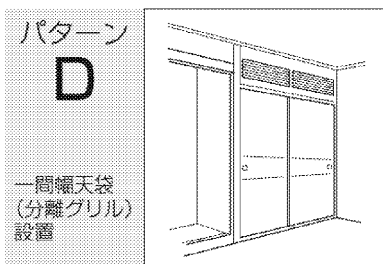
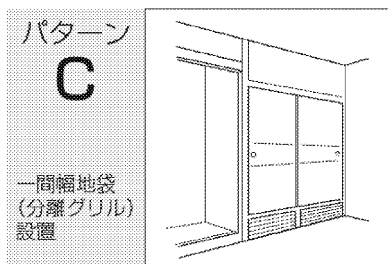
STEP4 室内ユニットの据付け

室内ユニットの据付けパターンについて

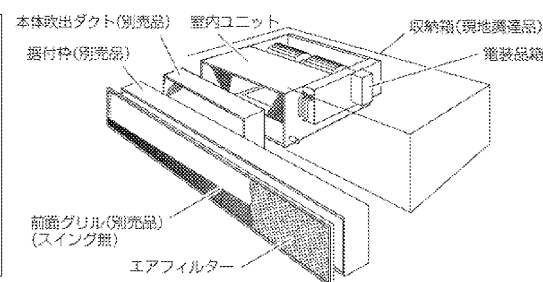
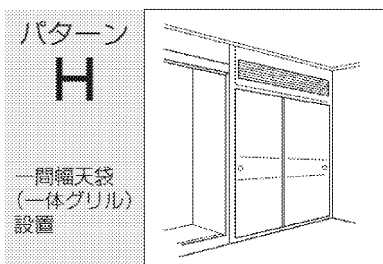
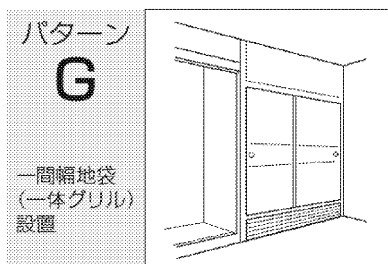
吸込・吹出一体設置タイプ(半間幅用)の場合



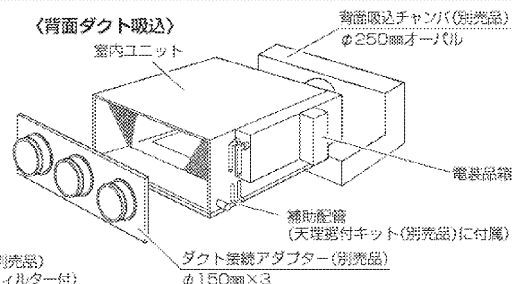
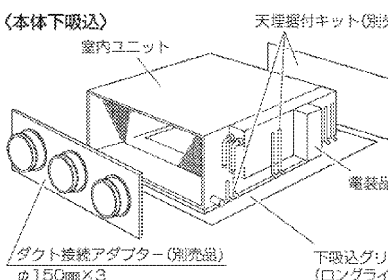
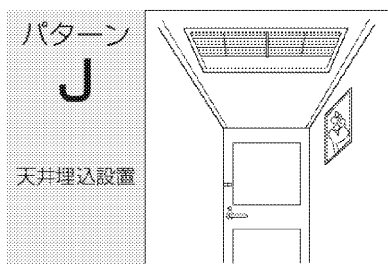
吸込・吹出分離設置タイプの場合



吸込・吹出一体設置タイプ(一間幅用)の場合



天井埋込カセットビルトイン設置の場合



◆表の据付け制約を守る。(性能低下のおそれ)

| | 換気連動 | ペア | マルチ |
|---------------|------|-------------------------------|---------|
| 受信ユニット 取付部 | 有 | 背面吸込チャンバ | 換気連動しない |
| | 無 | 下吸込グリルまたは 下吸込フィルターチャンバユニット | |

◆システムマルチの場合、受信ユニットを必ず下吸込フィルターチャンバユニット (別売品)に取り付けるため、ダクト長さは1.5m以下にしてください。

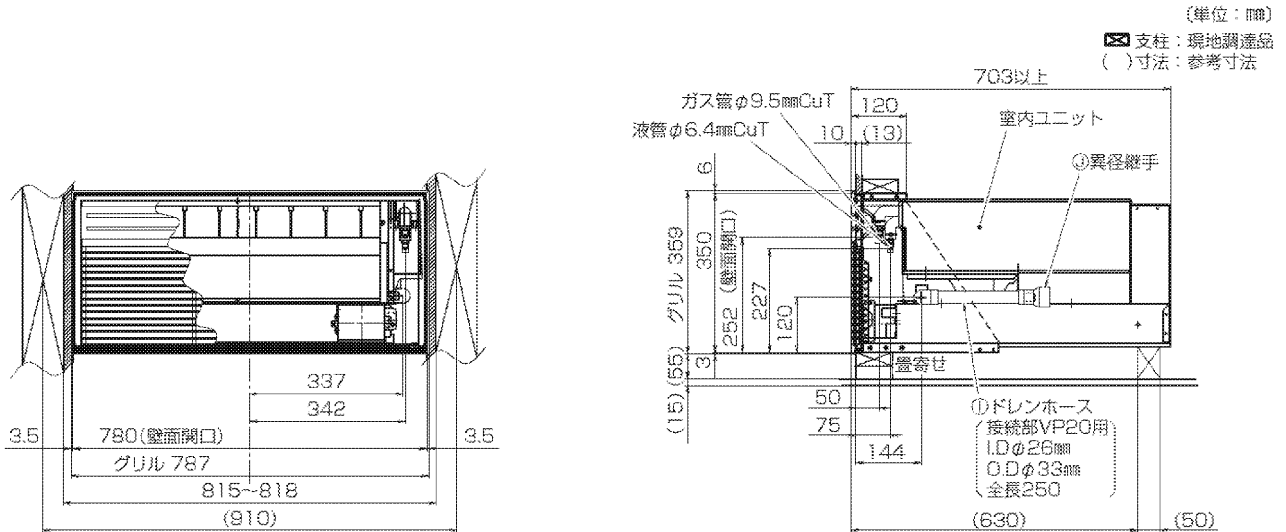
◆システムマルチでダクト接続する場合、室温検知を確実にするため受信ユニットを下吸込グリル (別売品) または下吸込フィルターチャンバユニット (別売品) に取り付けてください。また、下吸込フィルターチャンバユニット (別売品) の場合、ワイヤードリモコンの接続をおすすめします。

STEP4 室内ユニットの据付け っづき

据付けパターンA

1. 冷媒配管、ドレン配管の準備をする。

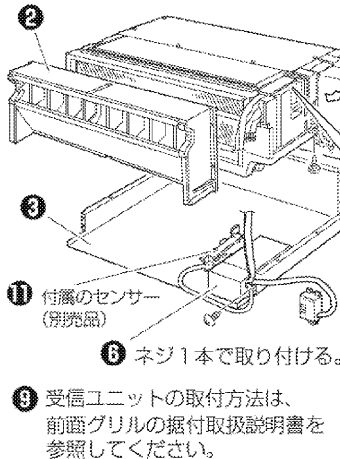
◆各設置パターンに応じて、室内ユニットを設置する前にあらかじめ、冷媒配管、ドレン配管の長さなどの調整を行ってください。



2. 室内ユニットの準備をする。

◆別売品の据付枠に付属のセンサーを取り付けてください。取り付けていないと運転できません。
◆各別売品の組立・取付方法は、それぞれの据付取扱説明書を参照してください。

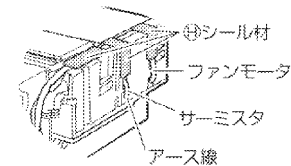
| 作業内容 | パターンA |
|------------------------|------------|
| ① 天板の付け替え | 不要 |
| ② 本体吹出ダクト（別売品）の取付け | 必要 |
| ③ 本体吸込チャンバ（別売品）の取付け | |
| ④ 電装品箱の取外し | |
| ⑤ 設置パターンを設定 | |
| ⑥ 電装品箱の取付け | 設定スイッチ切替 |
| ⑦ リード線を室内ユニット溝へ収納 | 本体吸込チャンバ内へ |
| ⑧ シール材の貼付け | 必要 |
| ⑨ 受信ユニットの取付け | 前面グリルの化粧板へ |
| ⑩ 結束バンドによるリード線固定 | 不要 |
| ⑪ 据付枠（別売品）に付属のセンサーの取付け | 必要 |



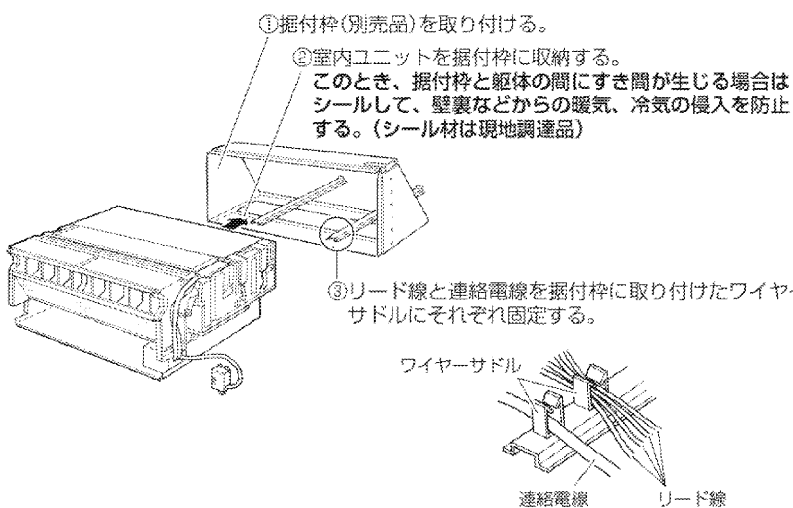
④ ネジ1本を外し、矢印側へスライドさせる。このとき、リード線を固定している結束バンド(3カ所)を切断して作業する。(電装品箱に残った結束バンドの切端はキレイに抜き取ってください)

⑦ リード線3本を本体出口側から、たるまないように溝に押し込む。リード線の余った部分は配管側でたるませる。

⑧ 各リード線を⊕シール材で固定する。



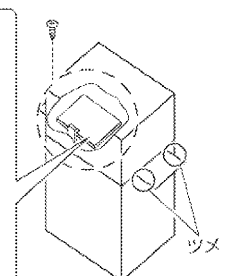
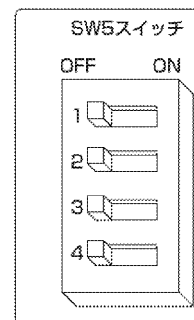
3. 室内ユニットを据え付ける。



(連絡電線の接続については、STEP4 ③電線を接続する を参照)

⑤設置パターン設定について

- ①カバーを取り外す。(ネジ1本)
- ②プリント基板上的設置場所切替スイッチ(SW5-1, 2)、長ダクト接続(高静圧)スイッチ(SW5-4)を「OFF」にする。
- ③ツメを引っかけて、カバーを取り付ける。



STEP4 室内ユニットの据付け っつき

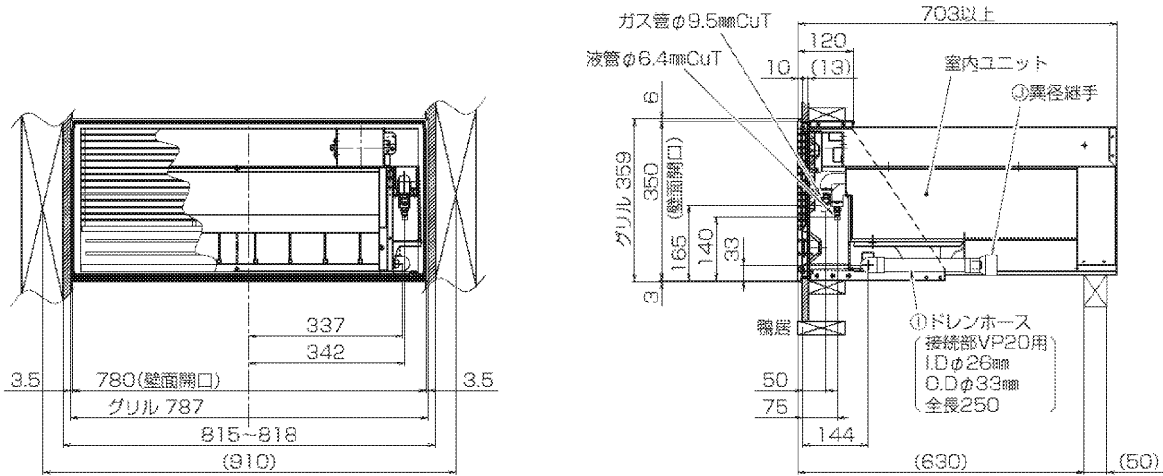
据付けパターンB

1. 冷媒配管、ドレン配管の準備をする。

◆各設置パターンに応じて、室内ユニットを設置する前にあらかじめ、冷媒配管、ドレン配管の長さなどの調整を行ってください。

(単位：mm)

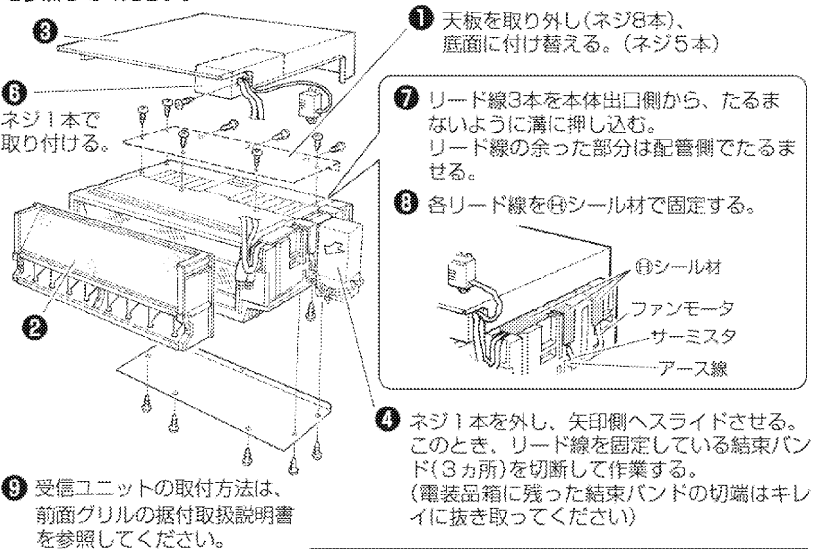
☒ 支柱：現地調達品
() 寸法：参考寸法



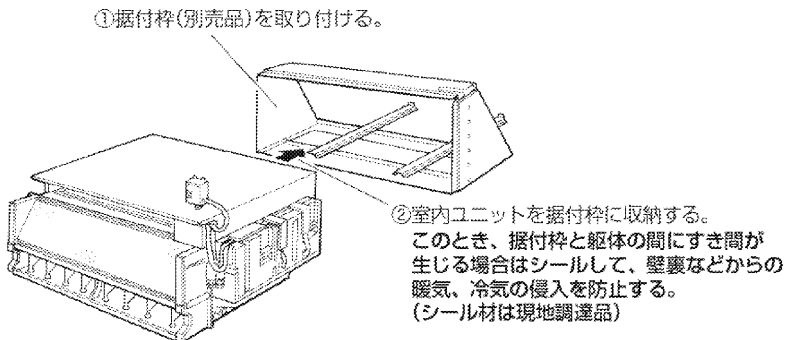
2. 室内ユニットの準備をする。

◆各別売品の組立・取付方法は、それぞれの据付取扱説明書を参照してください。

| 作業内容 | パターンB |
|------------------------|------------|
| ① 天板の付け替え | 必要 |
| ② 本体吹出ダクト(別売品)の取付け | |
| ③ 本体吸込チャンバ(別売品)の取付け | |
| ④ 電装品箱の取外し | |
| ⑤ 設置パターンの設定 | 設定スイッチ切換 |
| ⑥ 電装品箱の取付け | 本体吸込チャンバ内へ |
| ⑦ リード線を室内ユニット溝へ収納 | 必要 |
| ⑧ シール材の貼付け | |
| ⑨ 受信ユニットの取付け | 前面グリルの化粧板へ |
| ⑩ 結束バンドによるリード線固定 | 不要 |
| ⑪ 振付枠(別売品)に付属のセンサーの取付け | |



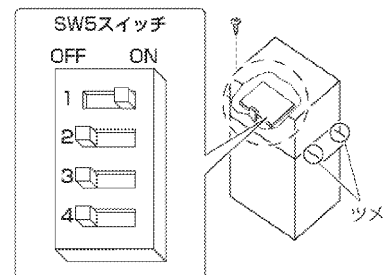
3. 室内ユニットを据え付ける。



(連絡電線の接続については、STEP4 ③電線を接続するを参照)

⑤設置パターン設定について

- ①カバーを取り外す。(ネジ1本)
- ②プリント基板上の設置場所切換スイッチ(SW5-1)を「ON」にする。設置場所切換スイッチ(SW5-2)、長ダクト接続(高静圧)スイッチ(SW5-4)を「OFF」にする。
- ③ツメを引っかけて、カバーを取り付ける。



STEP4 室内ユニットの据付け っつき

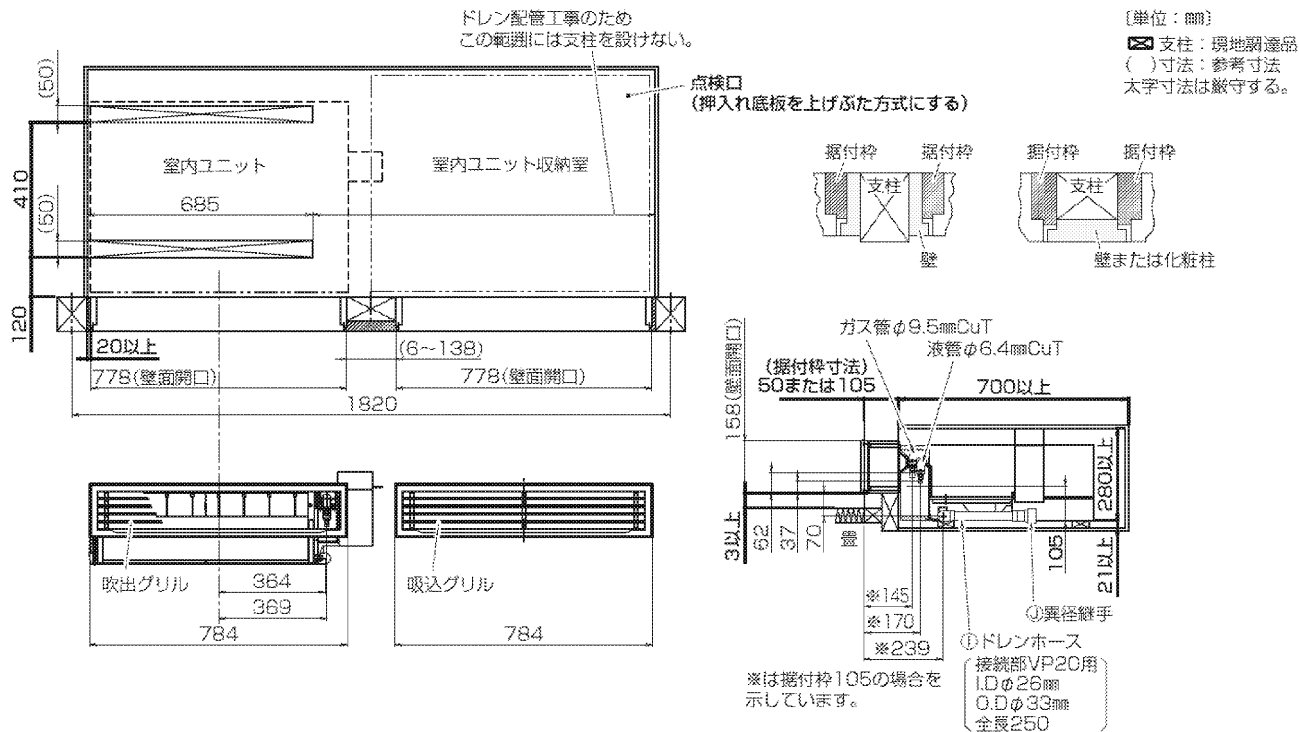
据付けパターンC・G

1. 冷媒配管、ドレン配管の準備をする。

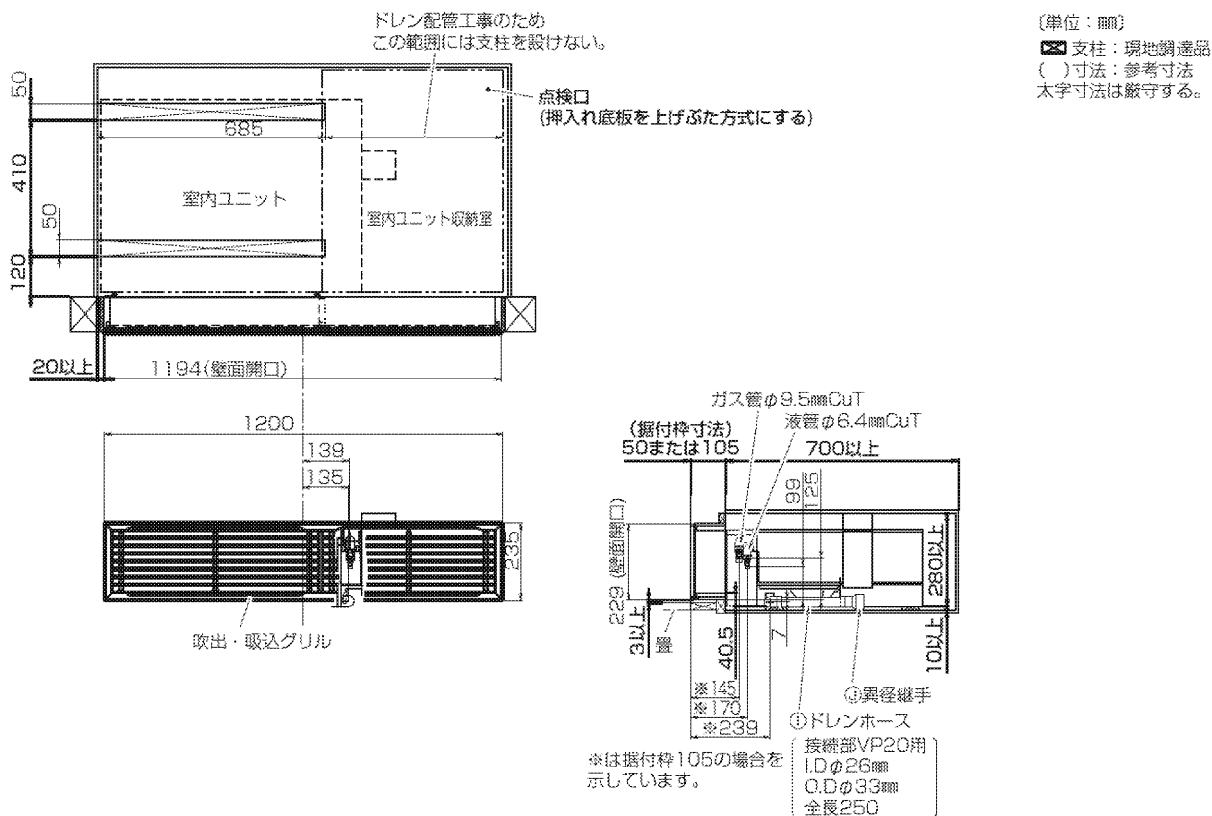
◆各設置パターンに応じて、室内ユニットを設置する前にあらかじめ、冷媒配管、ドレン配管の長さなどの調整を行ってください。

室内ユニット収納室は、外部の空気を吸い込むことのないように、配管貫通部、板の合わせ目などをしっかりふさぐ。

パターンCの場合



パターンGの場合



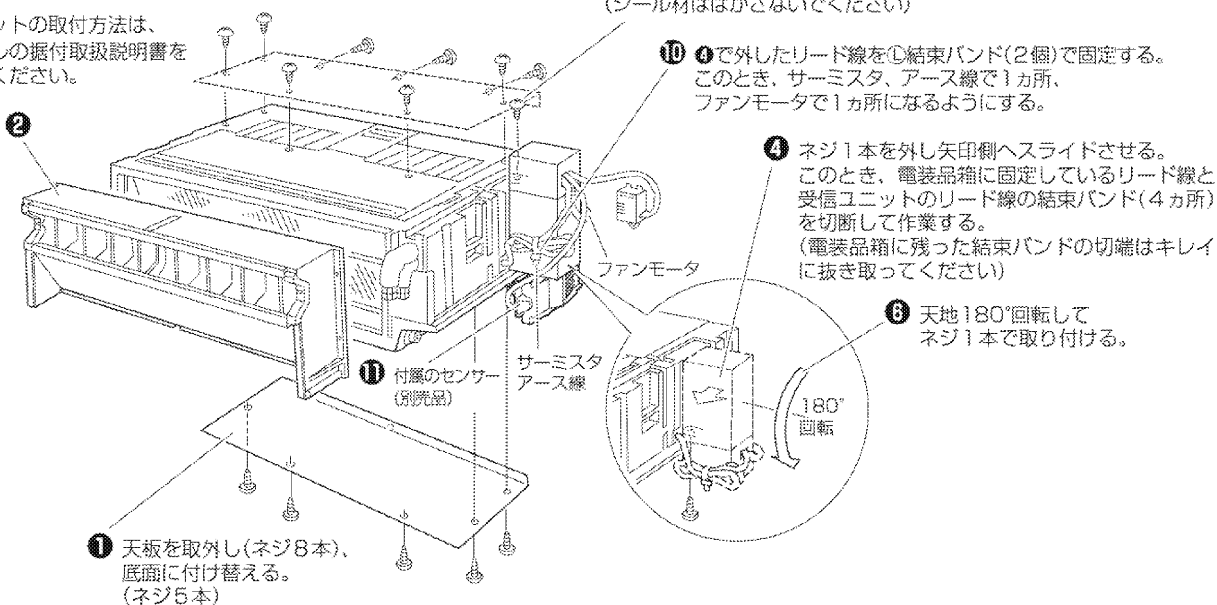
STEP4 室内ユニットの据付け っつき

2. 室内ユニットの準備をする。

- ◆別売品の据付枠に付属のセンサーを取り付けてください。取り付けていないと運転できません。
- ◆各別売品の組立・取付方法は、それぞれの据付取扱説明書を参照してください。

| 作業内容 | パターンC・G |
|------------------------|----------|
| ① 天板の付け替え | 必要 |
| ② 本体吹出ダクト(別売品)の取付け | |
| ③ 本体吸込チャンバ(別売品)の取付け | 不要 |
| ④ 電装品箱の取外し | 必要 |
| ⑤ 設置パターンの設定 | 設定スイッチ切換 |
| ⑥ 電装品箱の取付け | 天地180°回転 |
| ⑦ リード線を室内ユニット溝へ収納 | 必要 |
| ⑧ シール材の貼付け | 不要 |
| ⑨ 受信ユニットの取付け | 据付枠の化粧板へ |
| ⑩ 結束バンドによるリード線固定 | 必要 |
| ⑪ 据付枠(別売品)に付属のセンサーの取付け | |

⑨ 受信ユニットの取付方法は、前面グリルの据付取扱説明書を参照してください。



このネジを外して、再度電装品と一緒に固定する。
(シール材ははがさないでください)

⑩ ④で外したリード線を⑩結束バンド(2個)で固定する。
このとき、サーミスタ、アース線で1カ所、
ファンモータで1カ所になるようにする。

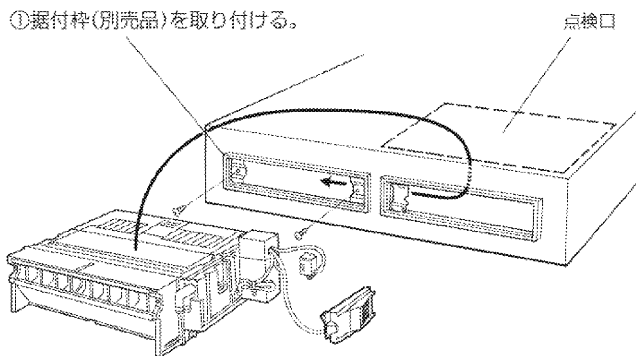
④ ネジ1本を外し矢印側へスライドさせる。
このとき、電装品箱に固定しているリード線と
受信ユニットのリード線の結束バンド(4カ所)
を切断して作業する。
(電装品箱に残った結束バンドの切端はキレイ
に抜き取ってください)

⑥ 天地180°回転して
ネジ1本で取り付ける。

① 天板を取外し(ネジ8本)、
底面に付け替える。
(ネジ5本)

3. 室内ユニットを据え付ける。

① 据付枠(別売品)を取り付ける。



(連絡電線の接続については、STEP4 ②電線を接続するを参照)

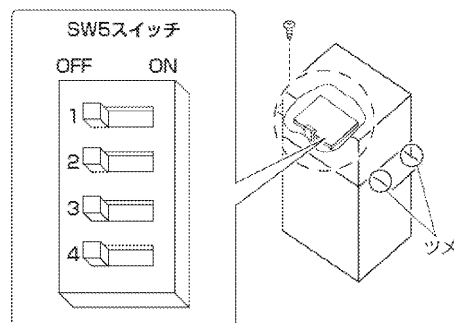
② 室内ユニットを点検口より収納する。

③ ドレン配管接続、配管接続、配線工事を行った後、本体固定金具のネジ穴と、本体吹出ダクトのボス穴を合わせて、④タッピンネジ2本(M4×12L)で固定する。

◆枠イラストはパターンCを示しています。
パターンGの場合も同様に行ってください。

⑤ 設置パターン設定について

- ①カバーを取り外す。(ネジ1本)
- ②プリント基板上の設置場所切換スイッチ(SW5-1、2)、長ダクト接続(高静圧)スイッチ(SW5-4)を「OFF」にする。
- ③ツメを引っかけて、カバーを取り付ける。



STEP4 室内ユニットの据付け っつき

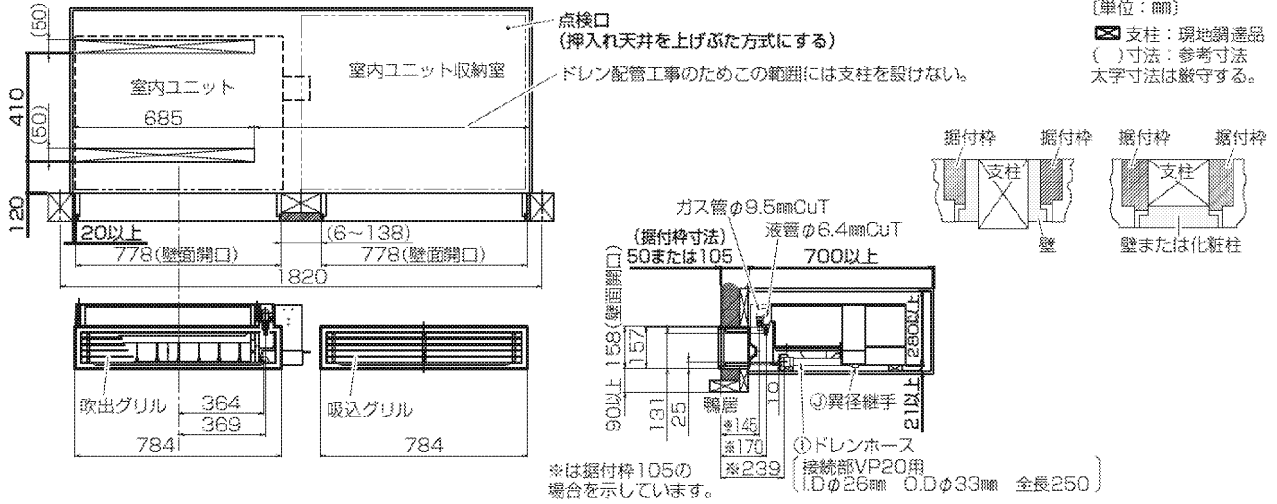
据付けパターンD・E・H

1. 冷媒配管、ドレン配管の準備をする。

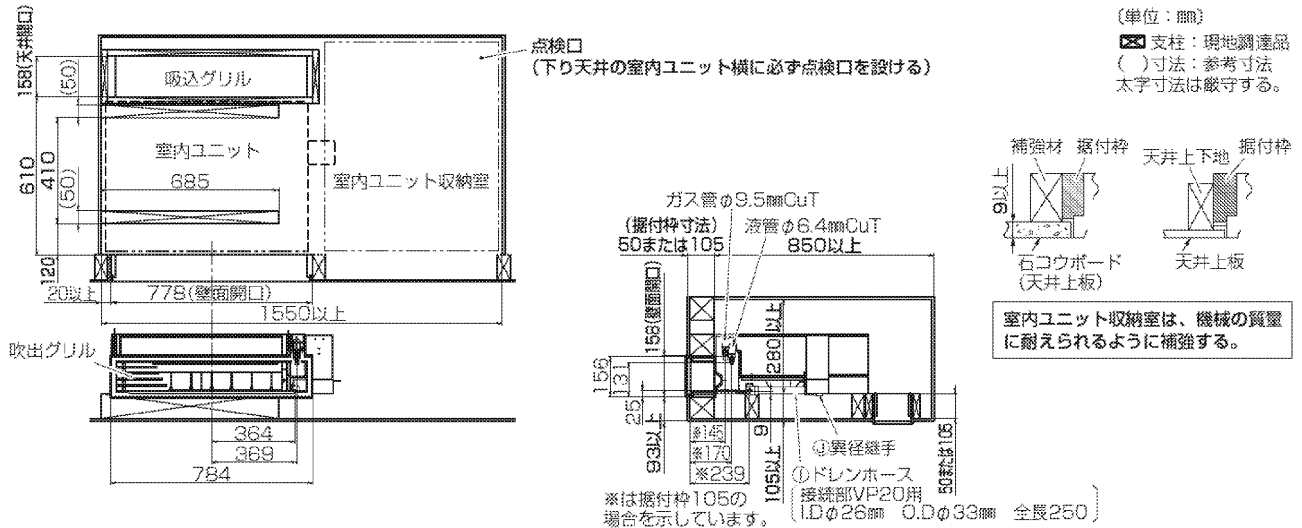
◆各設置パターンに応じて、室内ユニットを設置する前にあらかじめ、冷媒配管、ドレン配管の長さなどの調整を行ってください。

室内ユニット収納室は、外部の空気を吸い込むことのないように、配管貫通部、板の合わせ目などをしっかりふさぐ。

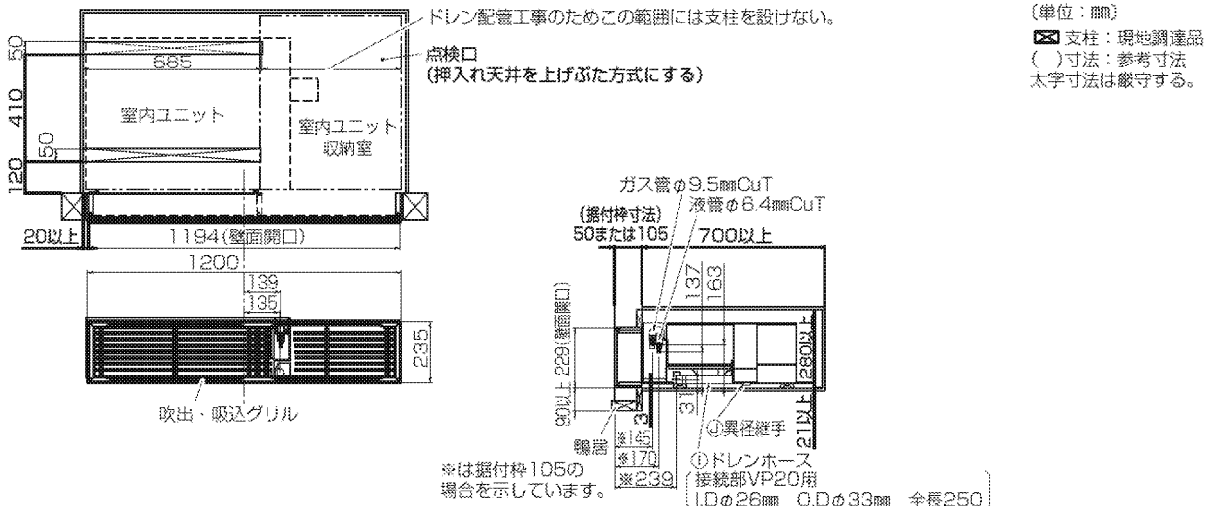
パターンDの場合



パターンEの場合



パターンHの場合

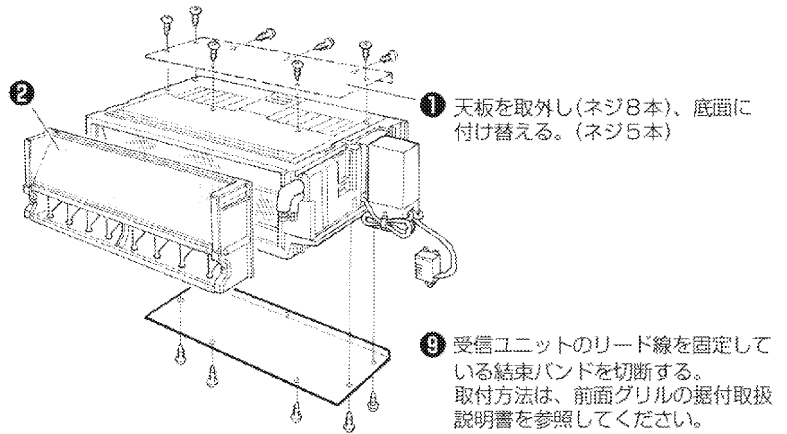


STEP4 室内ユニットの据付け っつき

2. 室内ユニットの準備をする。

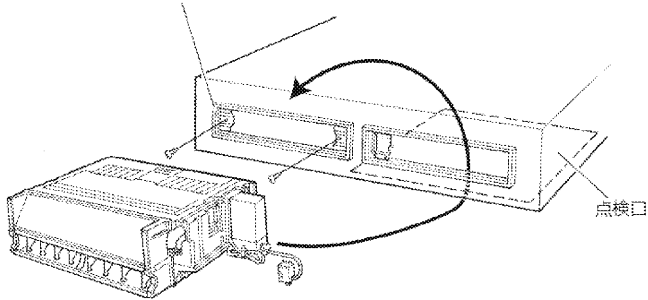
◆各別売品の組立・取付方法は、それぞれの据付取扱説明書を参照してください。

| 作業内容 | パターンD・E・H |
|------------------------|-----------|
| ① 天板の付け替え | 必要 |
| ② 本体吹出ダクト(別売品)の取付け | |
| ③ 本体吸込チャンバ(別売品)の取付け | 不要 |
| ④ 電装品箱の取外し | |
| ⑤ 設置パターンの設定 | 設定スイッチ切換 |
| ⑥ 電装品箱の取付け | 不要 |
| ⑦ リード線を室内ユニット溝へ収納 | |
| ⑧ シール材の貼付け | |
| ⑨ 受信ユニットの取付け | 据付枠の化粧板へ |
| ⑩ 結束バンドによるリード線固定 | 不要 |
| ⑪ 据付枠(別売品)に付属のセンサーの取付け | |



3. 室内ユニットを据え付ける。

①据付枠(別売品)を取り付ける。



(連絡電線の接続については、STEP4③電線を接続するを参照)

②室内ユニットを点検口より収納する。

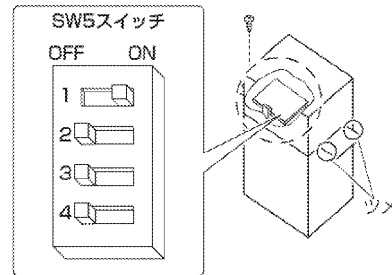
③ドレン配管接続、配管接続、配線工事を行った後、本体固定金具のネジ穴と、本体吹出ダクトのボス穴を合わせて、④タッピンネジ2本(M4×12L)で固定する。

◆枠イラストはパターンDを示しています。パターンE・Hの場合も同様に行ってください。

⑤設置パターン設定について

◆電装品箱に固定されているリード線の結束バンド(3カ所)をペンチなどで引き抜いてください。
(固定された状態ではプリント基板が引き出せません)

- ①カバーを取り外す。(ネジ1本)
- ②プリント基板上の
設置場所切替スイッチ(SW5-1)
を「ON」にする。
設置場所切替スイッチ(SW5-2)、
長ダクト接続(高静圧)スイッチ(SW5-4)
を「OFF」にする。
- ③ツメを引っかけて、カバーを取り付ける。

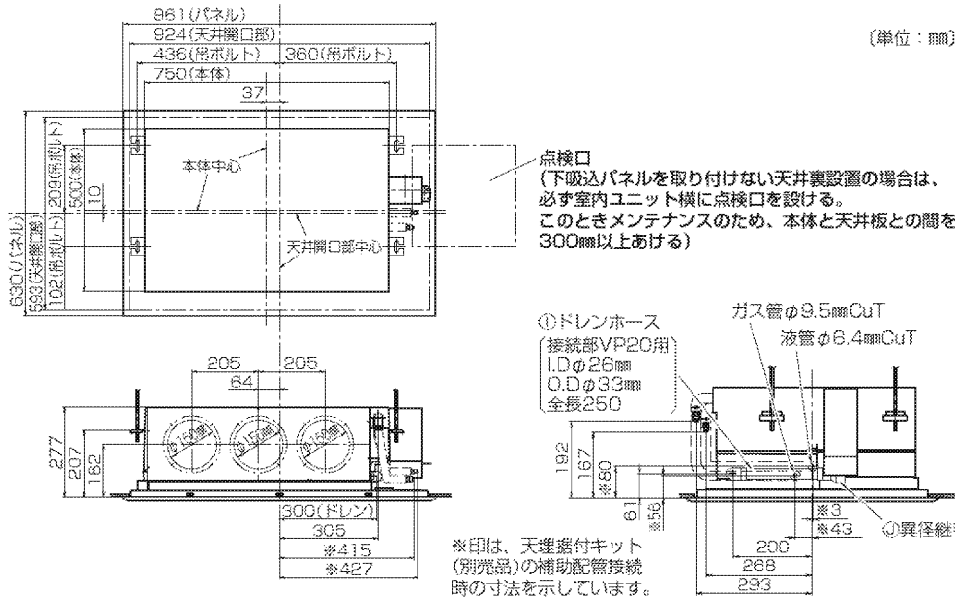


STEP4 室内ユニットの据付け っつき

据付けパターンJ

◆イラストおよび説明は、本体下吸込の場合です。ダクト吸込の場合は、外形図、取付寸法が異なりますので、背面吸込チャンバ(別売品)の据付取扱説明書を参照してください。

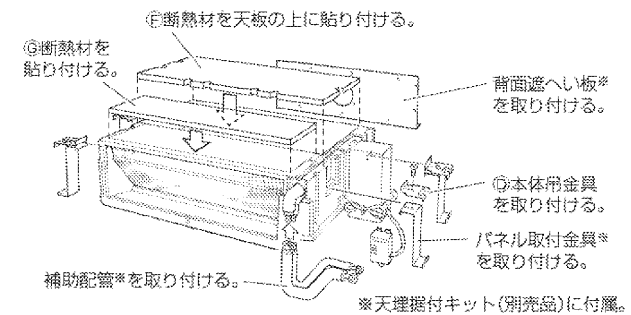
1. 冷媒配管、ドレン配管、吊ボルトの準備をする。
◆各設置パターンに応じて、室内ユニットを設置する前にあらかじめ、冷媒配管、ドレン配管の長さなどの調整を行ってください。



◆ドレンアップキット(別売品)の固定は、本体吊ボルトを共用します。キットは室内ユニットより先に吊り下げてください。組立・取付方法は、ドレンアップキットの据付取扱説明書を参照してください。

2. 室内ユニットの準備をする。

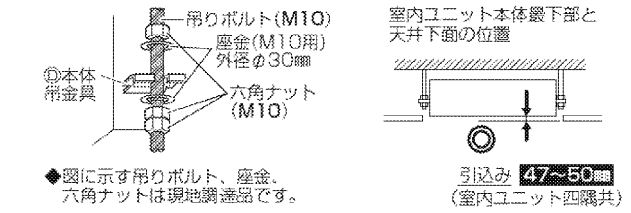
- ◆各別売品の組立・取付方法は、それぞれの据付取扱説明書に従ってください。
- ◆パターンJでは、⑥本体吊金具、⑦断熱材、⑧断熱材の取付けと天埋据付キット(別売品)の取付けが必要です。



(調湿・換気ユニットを接続する場合は、STEP6 調湿・換気ユニットを接続する場合を参照 **セパレートの場合のみ**)

3. 室内ユニットを据え付ける。

- ◆室内ユニットを天井開口より吊ボルトに吊り下げる。
- ①室内ユニットを仮設置する。
◆吊り金具に吊りボルトを通し、wナットで固定してください。
- ②室内ユニットの高さを調節する。



◆図に示す吊りボルト、座金、六角ナットは現地調達品です。

設置パターン設定について

- ①カバーを取り外す。(ネジ1本)
- ②プリント基板上の設置場所切替スイッチ(SW5-1, 2)を「ON」にする。
- ③ツメを引っかけて、カバーを取り付ける。

SW5スイッチ

| | | | |
|-----|----|-----|----|
| OFF | ON | OFF | ON |
| 1 | 2 | 1 | 2 |
| 3 | 4 | 3 | 4 |

機外静圧「標準」 機外静圧「高静圧」*

※長ダクト接続時高静圧が必要な場合、長ダクト接続(高静圧)スイッチ(SW5-4)を「ON」にする。

- ③室内ユニットが正しい位置になるように調節する。
- ④室内ユニットの水平度を確認する。
◆室内ユニットの水平度は、水準器で4角の水平度を確認してください。
◆室内ユニットを据え付けたときの傾きは1°以内に抑えてください。
- ⑤上側のナットを締め付ける。
(連絡電線の接続については、STEP4 ②電線を接続するを参照)

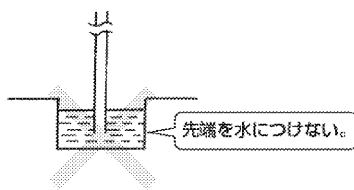
STEP4 室内ユニットの据付け っつき

1 ドレン配管を接続する

- ドレン工事は確実に排水するように配管する。
- **配管は短く、下り勾配を付ける。**
- ドレン配管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管VP16(外径22mm)またはVP20(外径26mm)を使用する。
- **屋内部のドレン配管は結露防止のため、肉厚10mm以上の断熱材で断熱する。**
- 室内ユニットに付属のドレンホース(接続口外径18mm、長さ250mm)で、ドレンパンのドレン配管接続口よりドレンホースを使用してドレン配管工を行う。
- 設置パターンにより、ドレン配管接続位置および、排水確認方法が異なるため、各必須別売品の据付取扱説明書で確認する。
- ドレンホースと塩ビパイプへの接続時、接着テーピングを行い確実に接続されているか確認する。
- 配管工事終了後、ドレン排水がスムーズにできるか確認した後、ゴミの侵入を防止するため、テープなどで密封する。

気密性の高い部屋で換気扇などを使用したときに異音(ポコポコ音)が発生する場合はドレンパイプ用逆止弁を使用する。
(別売品: K-HDV2516を推奨)

- 汚水槽の中へは、ドレン配管を入れない。



VP16(外径22mm)の場合

- ①ドレンホースとドレン配管を接続する。このとき、接着、テーピングを行い確実に接続されているか確認する。



VP20(外径26mm)の場合

- ①ドレンホースとドレン配管の間に②異径継手を接続する。このとき、接着、テーピングを行い確実に接続されているか確認する。



2 冷媒配管を接続する

- ◆必ず2丁スパナでトルクレンチを使用してください。
(断熱方法と締付トルクについては、STEP5 2冷媒配管を接続するを参照)
- ◆曲げはなるべく少なく、ゆるやかに。曲げる際はパイプベンダーを使用してください。(曲げ半径は30~40mm以上)
急に曲げると、その部分で断熱材が圧縮され、結露することがあります。

壁貫通穴とのすき間は必ずパテ埋めをする。
(外気侵入による結露防止のため)

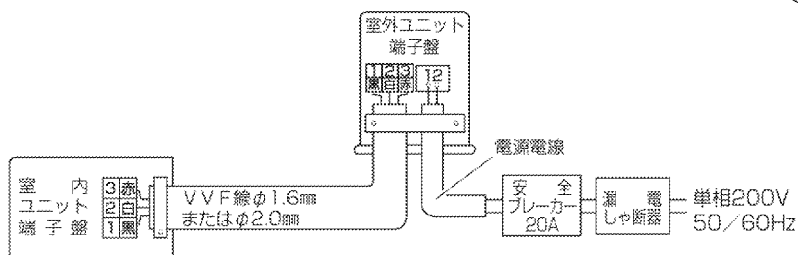
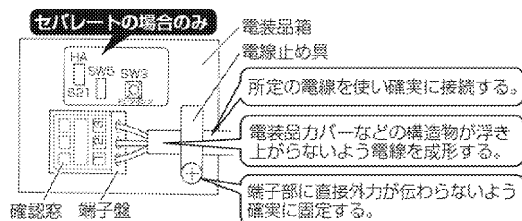
3 電線を接続する

警告

- 現地調達 of 電気部品を製品内に組み込まない。(ドレンポンプなどの電源は、端子盤から分岐させないでください。)
(発熱、火災の原因)
- 漏電しゃ断器は通常タイプを使用する。(高感度タイプを使用する場合は、高周波・サージ対応型をご使用ください。)

1. 電線の被覆を15mmむく。
2. 電線の色を確かめ、端子盤のそれぞれの挿入口より奥にあたるまで確実に差し込む。
3. 確実に電線が挿入されているか確認窓で確かめる。
4. 電線を引っ張り、抜けないことを確かめた後、電線止め具で電線を固定する。

- ◆システムマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。



STEP5 室外ユニットの据付け

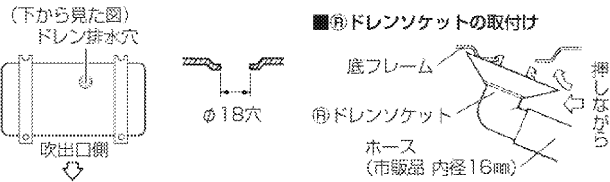
◆システムマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

1 室外ユニットを設置する

1. 据付場所の選定と配管位置から設置場所を決める。
2. ドレン水の処理が必要な場合はドレン工事を行う。

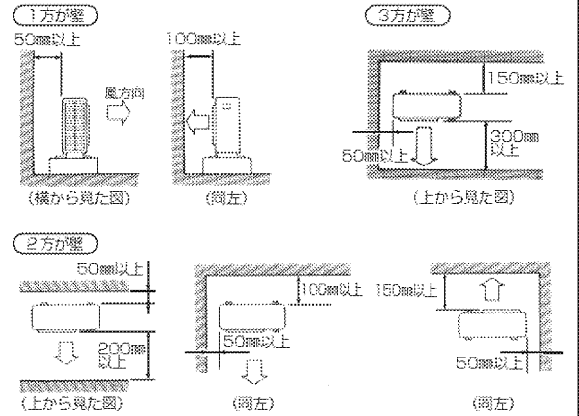
ドレン工事について

- ドレン排水するときは、㊸ドレンソケットを使用する。
- ㊸ドレンソケットを底フレームに取り付けるときは、ドレンホースをつないでから取り付ける。
- ドレン排水穴が取付台や床面などに隠れる場合は、室外ユニットの脚下に厚さ30mm以上の間座を入れる。
- 寒冷地では、室外ユニットのドレン排水は「タレ流し」にする。
(ドレンホースを使用すると、ドレン水が底フレーム内で凍結し、悪臭効果が損なわれる原因)



据付所要スペースについて

- 吸込口および、吹出口周辺に壁などの障害物がある場所に据え付ける場合、下記パターンに従う。
- 吹出側壁面高さは1.2m以下とする。



2 冷媒配管を接続する

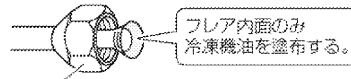
◆システムマルチの場合、室外ユニットの閉鎖弁カバーの取外し、取付けかたについてはマルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

1. ガス漏れ防止のため、フレア内面に冷凍機油(エーテル油)を塗布する。過剰な締付トルクにならないよう、フレア外面やフレアナットのネジ部には冷凍機油を塗布しない。
2. 冷媒配管接続部は、フレア中心を合わせ最初手回りで3~4回回転ねじ込み、その後トルクレンチを使用し指定のトルクでしっかりと締め付ける。
 - ◆フレアナットを締め付け過ぎると、長期経過後フレアナットが割れ、ガス漏れの原因になります。
 - ◆フレア内面に塗布する冷凍機油は、従来のR410A用を使用することもできます。
 - ◆異径管継手を使用する場合はガス漏れに注意してください。

警告
フレア加工は正しく確実にを行う。(不備があると冷媒ガスが漏れる原因)

| フレアナット締付トルク | |
|---|--|
| ガス側(配管径 9.5mm) 32.7~39.9N・m (333~407kgf・cm) | 液側(配管径 6.4mm) 14.2~17.2N・m (144~175kgf・cm) |

| 弁込た締付トルク |
|--|
| 17mm(2面幅) 14.2~17.2N・m (144~175kgf・cm) |
| 19mm(2面幅) 17.1~20.9N・m (175~213kgf・cm) |
| 22mm(2面幅) 21.6~27.4N・m (220~280kgf・cm) |



フレアナット
年数の経過による腐食割れを防ぐため、フレアナットは本体付属のものを使用する。

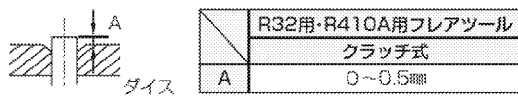
| サービスポイント締付トルク |
|---------------------------------|
| 10.8~14.7N・m (110~150kgf・cm) |

フレア加工と冷媒配管工事について

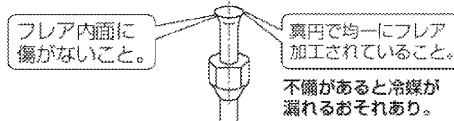
- ①パイプカッターで配管を切断する。
- ②切断面は正しく直角にバリ取りを行う。



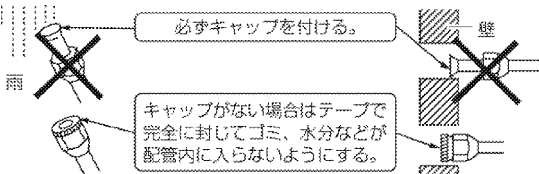
- ③フレアナットを配管に挿入する。
- ④ダイスからの出しろを正しくセットする。



- ⑥フレア加工が正しく出来ているかチェックする。



- 曲げはなるべく少なく、ゆるやかに。曲げる際はパイプベンダーを使用する。



既設配管の接続について

◆本製品(R32冷媒)は、R410A冷媒で使用していた既設配管に接続可能です。

配管と断熱の選定

◆配管セット(別売品)をおすすめしますが、市販材料使用の場合は次のことを守ってください。

市販の銅管使用の場合

仕様C1220T-O(JIS H3300) 付着油量40mg/10ml以下

断熱材材質：発泡ポリエチレンフォーム

熱伝導率：0.041~0.052W/mK(0.035~0.045kcal/mh°C)

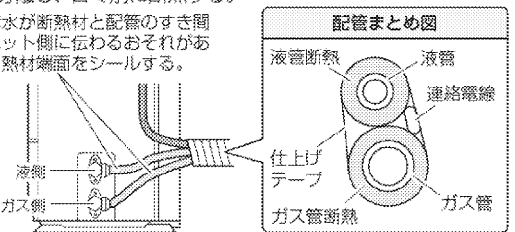
(ただし、ガス管は表面温度が最高110°Cになるため、それに耐えるものを使用する)

◆液管、ガス管共必ず断熱し、断熱寸法は下記に従ってください。

| ガス管 | 液管 | ガス管断熱 | 液管断熱 |
|------------|------------|-----------|----------|
| 外径9.5mm | 外径6.4mm | 内径12~15mm | 内径8~10mm |
| 肉厚0.8mm | 肉厚0.8mm | 肉厚10mm以上 | 肉厚10mm以上 |
| 曲げ半径30mm以上 | 曲げ半径30mm以上 | - | - |

- ガス管、液管は分離し、各々別に断熱する。

閉鎖弁の結露水が断熱材と配管のすき間から室内ユニット側に伝わるおそれがある場合は、断熱材端面をシールする。



STEP5 室外ユニットの据付け っづき

3 エアパーズとガス漏れ確認を行う

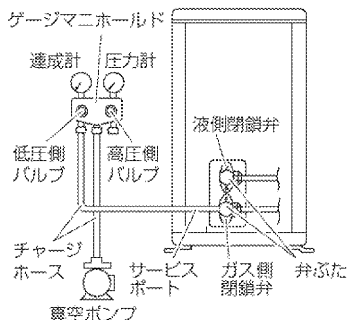
地球環境保護の観点から、エアパーズは、真空ポンプをご使用ください。

- R32用もしくはR410A用のツール(ゲージマニホールド、チャージホース、真空ポンプアダプターなど)を使用する。
- 閉鎖弁の弁棒操作用に六角レンチ(対辺4mm)を用意する。
- 冷媒配管の接続部はすべてトルクレンチを使用し、所定のトルクで締め付ける。

1. 図を参考に各接続箇所を接続する。
2. ゲージマニホールドの低圧側バルブを全開、高圧側バルブを全開にする。
◆高圧バルブは以降操作しません。
3. 真空引きを行い、連成計が -0.1MPa (-76cmHg)になっていることを確認する。

| 接続配管長さ | 真空ポンプ運転時間 |
|---------|-----------|
| 15m以内 | 10分以上 |
| 15mを超える | 15分以上 |

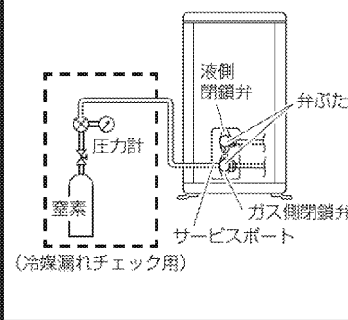
4. ゲージマニホールドの低圧側バルブを全閉にし、真空ポンプを停止させる。
◆1~2分間そのままの状態にし、連成計の針が戻らないことを確認します。
●連成計の針が戻る場合は、水分の混入や接続部の漏れが考えられるため、各接続部の点検、およびナットをいったんゆるめ、締め直した後、もう一度真空引きの操作を行う。
5. 液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたを外す。
6. 液閉鎖弁の弁棒を六角レンチを使って反時計方向に 90° 開き、5秒後に閉じ、ガス漏れ確認を行う。
7. ガス閉鎖弁のサービスポートよりチャージホースを外し、液閉鎖弁、ガス閉鎖弁を全閉にする。
◆弁棒は、あたりがある所で止め、それ以上回さないでください。
8. 液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたとサービスポートのキャップをトルクレンチを使って所定のトルクで締め付ける。



気密試験について

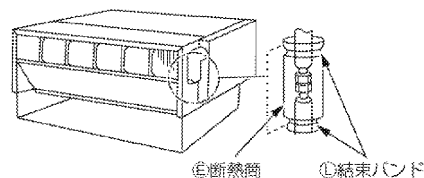
◆気密試験を行う場合は、下記の要領で作業してください。

- 室外ユニット閉鎖弁は全開のまま、窒素ガスを使用して冷媒漏れチェック(気密試験)を行い、圧力低下がないことを確認する。気密試験は、高圧部の設計圧力まで昇圧させる。(4.17MPa)
- 気密試験後は真空ポンプを使用して窒素を回収する。



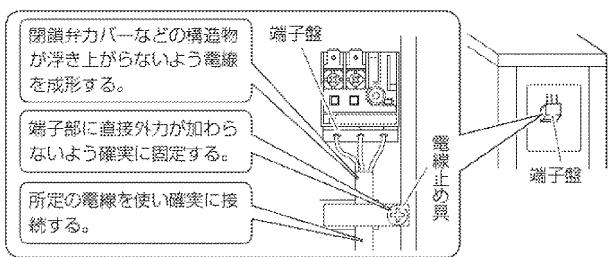
4 接続配管の仕上げをする

1. ㊦断熱筒を適当な長さに切断する。
2. 冷媒配管の接続部分を確実に㊦断熱筒にてシールする。
◆断熱が不十分だと、結露滴下の原因になります。
特に天井裏は、高温、多湿の場合が多いので、断熱は十分に行ってください。
3. ㊦断熱筒取付け後、上端、下端を㊧結束バンドで縛る。
●配管が構造物などに接触しないよう注意する。(配管断熱材の変形、つぶれによる結露の原因)
◆梅雨時の新築物件、新築の鉄筋コンクリート建築、通気のない天井裏など天井内(壁内)相対湿度が80%を超えと思われる場合は、断熱材の外皮表面に結露することがありますので、設置環境に応じて冷媒配管の断熱材を強化してください。



5 電線を接続する

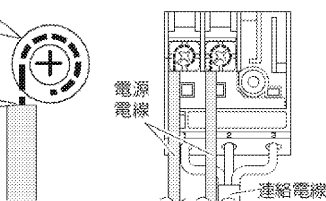
1. 室外ユニットの端子盤に連絡電線を取り付ける。
●取付けかたは、STEP4 ㊨電線を接続する に準じる。



2. 電源電線を取り付ける。

端子盤のネジに、必ず右巻きで巻き付ける。

被覆むきはここまで。(被覆むきが長いと感電、漏電の原因)

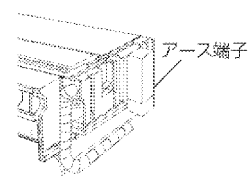


アース線の工事

1. D種接地工事を行う。
●接地抵抗は必ず 100Ω 以下にする。ただし漏電しゃ断器(定格感度電流が 100mA 以下で動作時間が 0.2 秒以下の電流動作型のもの)を取り付ける場合は 500Ω 以下にする。

アース線の接続について

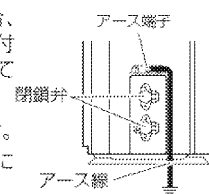
室内アースの場合



室外アースの場合

◆システムマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

- ①閉鎖弁カバーを取り外す。
- ②アース線をアース端子に接続する。



●電源電線の最大こう長は表に合わせ、電気設備技術基準および内線規程に従って施工する。

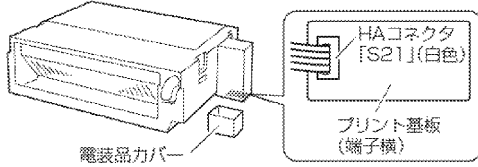
| 能力帯 (kW) | 電源電線最大こう長 (m) | |
|----------|---------------|--------|
| | φ1.6mm | φ2.0mm |
| 2.8 | 14 | 22 |
| 3.6 | 14 | 22 |
| 4.0 | 11 | 17 |
| 5.0 | 9 | 15 |

STEP6 必要なときに

HAシステム(遠隔制御機器)と接続する場合

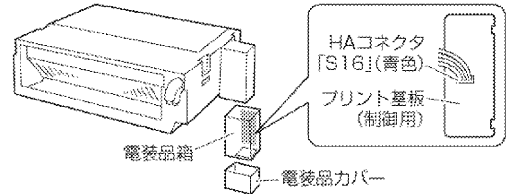
HAの場合

1. 電装品カバーを取り外す。(ネジ1本)
2. HA接続コードをプリント基板上のHAコネクタ「S21」(白色)に接続する。
◆リモコン切換スイッチ(SW5-3)は「OFF: ワイヤレス」(工場出荷時のまま)です。



JEM-A規格対応HAの場合

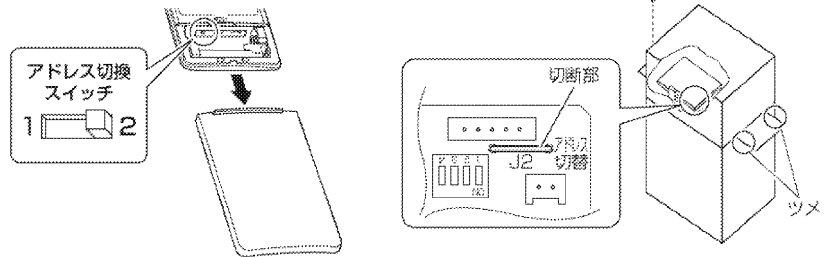
1. 電装品カバーを取り外す。(ネジ1本)
2. 電装品箱を引き出す。
3. プリント基板を取り外す。(ツメ2カ所)
4. HA接続コードをプリント基板上のHAコネクタ「S16」(青色)に接続する。



同じ部屋に室内ユニットを2台設置する場合

◆同じ部屋に室内ユニットを2台設置する場合、2台のうちどちらか一方のアドレスを設定変更してください。

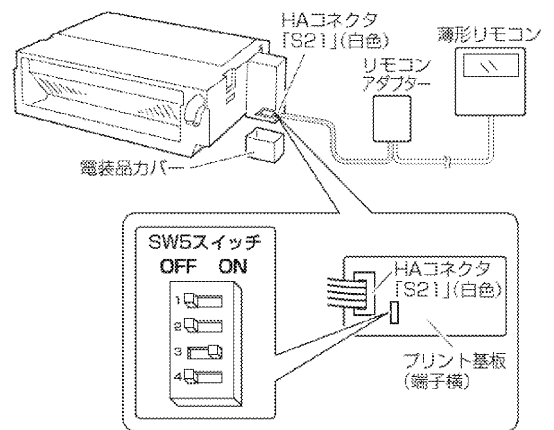
1. リモコンの電池を抜いて、「取消」ボタンを押す。
(リモコンの表示が消えたことを確認してください)
2. リモコンのアドレス切換スイッチを「2」にする。
3. 電装品カバーを取り外す。(ネジ1本)
4. プリント基板上的アドレスジャンパ(J2)を切断する。



薄形リモコンを取り付ける場合

- ◆薄形リモコン使用時には、ワイヤレスリモコンは使用できません。
- ◆配線の際には電気ノイズ(外来雑音)を受けないよう、他の電源ラインとは離して配線してください。

1. 電装品カバーを取り外す。(ネジ1本)
2. 接続コードをプリント基板上のHAコネクタ「S21」(白色)に接続する。
3. プリント基板上的リモコン切換スイッチ(SW5-3)を「ON」にする。

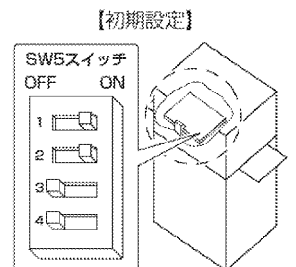


室内温度センサーが付いているため、受信ユニットは取り外さない。
(受信ユニットの取付位置は、STEP4 ●室内ユニットの据付け を参照)

スイッチ設定方法と使いかた

SW5スイッチ1~4

| スイッチ番号 | SW5-1 | SW5-2 | SW5-3 | SW5-4 |
|--------|--|--------|-----------------------|---|
| 設定機能 | 設置場所切換 | | リモコン切換 | 長ダクト接続(高静圧) |
| ON→OFF | 天井・天袋↔地袋 | ダクト↔壁埋 | ワイヤード↔ワイヤレス | 入↔切 |
| 内容説明 | 室内ユニットを設置する場所により設定を行う。 (設定方法については、STEP4 ●据付けパターンA~Jを参照) | | 薄形リモコンを接続する場合「ON」にする。 | 長ダクト接続(高静圧)をする場合「ON」にする。(設定条件については、商用図記載の静圧特性を参照) |
| 初期設定 | ON | ON | OFF | OFF |



STEP6 必要なときに

調湿・換気ユニットを接続する場合 (マルチ室内ユニットには接続できません)

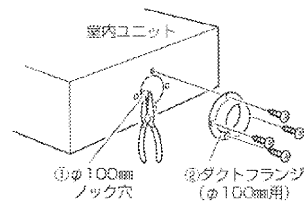
◆調湿・換気ユニットをダクト直結し、連動運転します。(調湿・換気ユニット運転時には、室内ユニットのファンは停止しません)

1. 室内ユニットを準備する。(吊り下げ前に行う)

- ①天埋据付キット(別売品)の背面遮へい板または、背面吸込チャンバ(別売品)にニッパおよびカッターナイフで開口する。
- ②ダクトフランジ(別売品)を取り付ける。

2. ダクトを接続する。

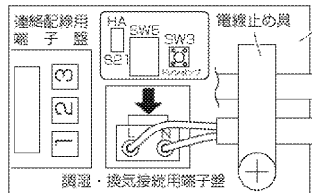
- 不燃フレキシブルダクト(別売品)と防火ダンパ(別売品)を使用して、調湿・換気ユニットの室内給気(SA)側を室内ユニットのダクトフランジに接続する。



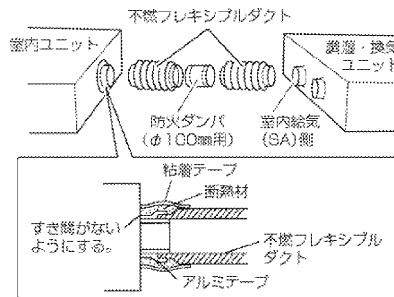
ダクト接続の際には、しっかりと差し込み、ダクトテープなどで風が漏れないよう養生する。

3. 連絡配線を接続する。(連絡配線の接続については、STEP4 ⑤電線を接続するを参照)

- 連絡配線は、VVVFφ1.6mm×2芯(現地調達品)で行い、配線は端子(L)(N)に接続する。



- 端子盤の上部を下に押えながら配線を接続する。このとき奥まで確実に入れる。
- 電線止め具に連絡配線と共に、調湿・換気接続用配線を固定する。
- 配線を外す場合には、同様に上部を下に押えながら、引き抜く。



4. 試運転を行う。

- 調湿・換気ユニットを運転させると、連動して室内ユニットが運転することを確認する。このとき、受信ユニット表示部「換気」が点灯していることを確認する。

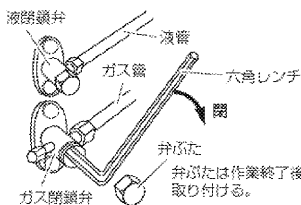
エアコンの移設や修理、廃棄するとき ポンプダウン運転

◆地球環境保護の観点から、移設時にはポンプダウンを行い閉鎖弁をしっかりと閉めてください。

◆フロン回収破壊法により、冷媒フロンの回収が必要です。廃却時にはフロン回収事業登録業者に依頼してください。

1. ポンプダウン運転を行う。

- ①液閉鎖弁、ガス閉鎖弁の弁ふたを外す。
- ②強制冷房運転を行う。
- ③5～10分後、液閉鎖弁を六角レンチを使って閉じる。
- ④2～3分後、ガス閉鎖弁を閉じる。
- ◆強制冷房運転を停止します。



フロンについて

R32冷媒 家庭用エアコンには最大でCO₂(温暖化ガス) 1,200kg(マルチシステムの場合は3,500kg)に相当するフロン類が封入されています。地球温暖化防止のため、移設・修理・廃棄等に当たってはフロン類の回収が必要です。

この表示は家庭用エアコンに温暖化ガス(フロン類)が封入されていることを注意喚起するための表示です。

強制冷房運転のしかた

- 室内ユニットの応急運転スイッチを5秒以上長押しする。
- ◆「ビビッ」と鳴り、運転を開始します。
- ◆強制冷房運転は約15分で終了し、自動的に停止します。強制的に運転を終了させたいときは室内ユニットの応急運転スイッチを押してください。

STEP7 試運転と確認

試運転を行う

新築物件やリフォームなどの内装工事、床面のワックスかけ時には、エアコンの運転を避けてください。作業終了後にエアコンを運転する場合は、十分に換気を行ってください。ワックスなどの成分がエアコン内部に付着し、水漏れの原因になります。

◆システムマルチの場合、マルチ室外ユニットに付属の据付説明書に従ってください。

◆試運転は必ず冷房または暖房運転のどちらかで行ってください。

- コンセントの電圧または電源電圧を測定し、仕様通りを確認する。
- 冷房運転のときは設定温度を一番低い温度に、暖房運転のときは一番高い温度に合わせる。
- 取扱説明書をもとに運転操作を行い、異常なく作動することを確認する。
 - ◆停止後約3分間は製品保護のため運転しません。
- 試運転後は適切な温度(冷房の場合26～28℃、暖房の場合20～22℃)に戻す。
- 設置場所切換スイッチ、リモコン切換スイッチ、長ダクト接続(高静圧)スイッチの設定を確認する。

◆冬季に冷房運転をするなどの場合は、次の方法で試運転モードに行ってください。

- ①「運転/停止」ボタンを押す。(運転開始します)
- ②温度▲ボタン、温度▼ボタン、「運転切換」ボタンを3つ同時に押す。
- ③温度▲ボタンを押す、「T」を選択する。
- ④「運転切換」ボタンを押す、試運転モードを開始する。
- ◆試運転モードは約30分で終了し、自動的に停止します。強制的に試運転を終了させたいときは、「運転/停止」ボタンを押してください。
- ◆試運転モードでは、一部の機能が使用できません。
- ◆エアコンを運転しないときでもいくら電力を消費しています。据付け後、お客様がすぐに使用されない場合などは、ムダな電力消費をさけるため、ブレーカーを切ってください。(地袋設置は除く) また、お客様への引き渡し時には必ずブレーカーを入れてください。

据付工事後に、必ず確認してください。

確認項目 チェック項目 欄でチェック(☑)をしてください。

| 番号 | チェック項目 | 不良の場合 |
|----|--|---------------------|
| 1 | <input type="checkbox"/> 室内外ユニットはしっかり据え付けられているか? | 落下、振動、騒音 |
| 2 | <input type="checkbox"/> ガス漏れ検査は行ったか? | 冷えない、暖まらない |
| 3 | <input type="checkbox"/> 断熱は完全に行ったか?(ガス管、液管、室内側のドレンホース延長部) | 水漏れ |
| 4 | <input type="checkbox"/> 室内ユニットのドレン排水のチェックをしたか? | 水漏れ |
| 5 | <input type="checkbox"/> 室外ユニットのドレン工事が必要かお客様に確認したか? | 室外ユニット底面穴からのドレン水の滴下 |
| 6 | <input type="checkbox"/> 換気扇などを使用した場合、ドレンホースから異音(ボコボコ音)はしないか? | 別売品ドレンパイプ用逆止弁使用 |
| 7 | <input type="checkbox"/> アース線の接続は確実か? | 感電の危険 |
| 8 | <input type="checkbox"/> 「電気設備に関する技術基準」および「内線規程」に従って電線は正しく接続したか?(電線の仕様、接続箇所) | 運転不能、焼損 |
| 9 | <input type="checkbox"/> 室内外ユニットの吸込口、吹出口が障害物でふさがっていないか? | 冷えない、暖まらない |
| 10 | <input type="checkbox"/> 閉鎖弁は開いているか? | 冷えない、暖まらない |
| 11 | <input type="checkbox"/> ワイヤレスリモコンの送受信は確認したか? | 運転不能 |
| 12 | <input type="checkbox"/> アドレスの設定は確認したか? | 運転不能 |

| 機種名 | 製造番号 | 据付年月日 | 据付担当サイン欄 |
|-----|------|-------|----------|
| | | | |

◆この据付説明書は、取扱説明書と一緒に必ず保管してください。(据付工事後、お客様にお渡しください)

3P349225-1